

小中高一貫教育の推進を図るための支援の在り方

～小中高一貫教育の成果の普及と支援の充実をめざして～

機 関 名（宮崎県教育研修センター）
職・氏名（指導主事 今城 真美）

1 はじめに

本県では、平成19年度から21年度にかけて、一人一人の確かな学力の育成と個性の伸長を目標に掲げ、「地域の特性を生かした多様な一貫教育研究事業」を行ってきた。現在、教育課程特例校として、串間市、えびの市、西都市が小中高一貫教育を、美郷町、日向市が小中一貫教育を、日南市（旧北郷町）が幼保小中一貫教育を行っている。その他にも、小中学校の9年間の生き方教育を「こすもす科」として指導している小林市等、県内において一貫教育への積極的な取組が見られる。

宮崎県教育研修センター（以下本センター）では、昨年度から、県内外の小中高一貫教育を推進している学校の調査研究を行い、各学校の取組やその成果と課題に関する情報を収集してきた。昨年度までの調査研究を基に、本年度からは、小中高の教職員の一層の相互理解を図り、県内各地域で行われてきた一貫教育の成果を検証、普及することを目的として、本センターのもつ各学校への支援機能を生かした研究を推進することとした。

2 研究のねらい

小中高の教職員の一層の相互理解を図り、県内各地域で行われてきた一貫教育の成果を検証、普及する。

3 研究の内容

- (1) 各地域、各学校の一貫教育に関する具体的な取組に対して支援を行う。
- (2) 教職員、保護者及び児童生徒の一貫教育に関する実態を調査・分析し、学校種による意識や実践の違いを明らかにする。
- (3) 小中一貫教育に取り組んできた各学校・地域の学力調査等の結果を分析し、一貫教育の成果と課題を明らかにする。
- (4) 県内外の小中高一貫教育先進校を視察し、一貫教育に関する情報を整理して、全県下に提示する。

4 研究計画（平成22年度から平成24年度までの3か年）

[事業内容の年次計画]

事業内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度
1 一貫教育に関する学校への支援	—	—	→
2 一貫教育に関する成果と課題の整理	—	—	→
3 一貫教育を進めるためのノウハウの整理	—	—	→
4 一貫教育に関する課題別研修の実施	—	—	→
5 リーフレットの作成と配付	—	→	—
6 地域のニーズに基づいた研修会の実施	—	—	→

5 研究の経過

(1) 昨年度の調査研究

ア 一貫教育を推進している学校のニーズの把握

一貫教育を推進している県内3市3町の学校（中等教育学校1校・中学校6校・小学校7校）から、一貫教育の現状や課題に関する聞き取り調査を行い、その結果を基に、一貫教育を推進している地域や学校が必要としている情報（ニーズ）を、次の(ア)～(エ)のように整理した。

- (ア) 一貫教育に取り組む意義（一貫教育の成果や課題）
- (イ) 一貫教育を推進するための具体的なマネジメントの方法
- (ウ) 一貫教育における新カリキュラム（地域学等）の進め方
- (エ) 異校種の児童生徒に対する教科等の指導方法の在り方

イ 一貫教育先進校の情報の整理

地域や学校のニーズに基づき、県内外の一貫教育先進校の情報を収集し、「マネジメント」、「カリキュラム」、「一貫教育の成果と課題の検証方法」という3つの視点で整理し、本センターのカリキュラム支援センターから情報提供ができるようにした。

一貫教育の情報を提供します

カリキュラム支援センター内に、「一貫教育」に関するコーナーを設置しました。「一貫教育」に取り組んでいる県内外の学校等の研究紀要をはじめ、実践事例集、学習指導案等を取りそろえています。なお、本教育研修センターのWebページ上にも、「一貫教育」の広報を掲載しています。

「カリキュラム支援センター便り」より
H22. 4. 15



ウ 昨年度の支援状況

次の表1は、昨年度の一貫教育に関する支援の実績である。平成20年度から継続して支援依頼のある地域への支援が中心であった。

表1 昨年度の主な支援の実績

支援対象 (学校種)	件数	人数	形式	内容
美郷町（小中）	3	2	講義・演習	地域学・英会話研修会
	1	1	講義	小中一貫教育研修会 地域学（美郷学）
	1	7	講義	学力向上研修会
中間市（小中高）	1	4	指導助言	小中高一貫教育推進研究発表大会
串間市（小）	1	1	講義・演習	串間学研修会

人数：支援を行った指導主事等の数

エ 昨年度の支援を見直す視点

一貫教育を推進している地域や学校のニーズに対応できる内容であったか。

「待ちの支援」から「攻めの支援」へ

(ア) 「攻めの支援」とは

- 地域や学校のニーズに応じたきめ細かな支援
- 本センターの持つ情報を積極的に発信する支援

(イ) 「攻めの支援」を行うために

- 研究対象の地域を絞り込む。
- 県立高校一般入学者選抜学力検査問題（以下県立高校入試問題）やみやざき小中学校学力・学習状況調査問題（以下学力調査問題）の分析結果に関する情報等を活用する。

(2) 本年度の調査研究

ア 研究対象の地域（調査研究対象地域・研究協力依頼校）について

一貫教育に関する成果と課題を整理するために、平成19年度から一貫教育に取り組んでいる市町を調査研究対象地域とした。また、地域や学校のニーズに応じたきめ細かな支援を行うために、調査研究対象地域の中から、これまでの支援の実績や現状等を踏まえ、えびの市飯野地区と美郷町全地区の学校を研究協力依頼校とした。

イ 研究班と研究内容について

本センターの企画・調査課を中心に、3つの研究班に分かれ、次のような研究内容に取り組むこととした。

情報発信班	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校の実践資料等、収集した資料の整理 ・研究の成果を発信する資料の作成 ・一貫教育調査研究に関わる情報の定期的な発信
授業支援班	<ul style="list-style-type: none"> ・小中9か年間の系統（高等学校とのつなぎ）を踏まえた授業の在り方 ・授業作りに必要となる資料の収集と整理
調査研究班	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力依頼校、調査研究対象地域における学力・意識調査等の分析 ・研究協力依頼校の意識調査の作成と結果分析

ウ 研究協力依頼校に対する支援の実際

(ア) 「PISA型読解力」にかかわる研修会〔えびの市：講義〕

○ 小中高で一貫して「PISA型読解力」の育成に取り組むことになっている。そこで、「読解力」とは何かということの説明してほしい。

○ 読解力を育成する具体的な方法や読解力と学力向上との関連が知りたい。

◎ 「読解力」や「学力」の考え方、読解力の育成を図るための取組の一例として、県外の実践を紹介した。（図1）

◎ 学力調査の結果の分析等を基に、小中学校の児童生徒の学力の実態を説明した。

図1 講義用プレゼン（一部）



(イ) 小中一貫教育の取組に関する意識調査の指標作成〔美郷町：情報提供〕

○ 小中一貫教育の取組の成果と課題を検証する指標として、参考になるものを提案してほしい。

◎ 美郷町の児童生徒の実態等を聞き取り、カリキュラム支援センターの情報を提供しながら、町教育委員会と共同で意識調査の指標を作成した。

(ウ) 一貫教育「英会話科・英語表現科部会」における研修〔えびの市：講義・演習〕

○ 小学校教諭、中学校英語科担当教諭対象のアンケート結果（図2）を基に、課題になっている点について説明してほしい。

図2 アンケート結果（一部）



支援

- ◎ 外国語活動と英会話科の違い（図3参照）や英語科と英語表現科の違い、英会話科の評価、授業実践例など、アンケート結果を基に、講義内容を精選した。

図3 講義用プレゼン(一部)



- (エ) 小中学校一貫教育学力向上研修会 [美郷町：講義・演習]

ニーズ

- 本年度の県立高校入試問題や学力調査問題、全国学力・学習状況調査の分析結果を基に、小中9か年間の指導で、児童生徒に身に付けさせるべき学力について説明してほしい。
- 学力を身に付けさせるための授業の在り方を具体的に示してほしい。
- ◎ 県立高校入試問題や学力調査問題を解く時間を設定した。

支援

- ◎ 県立高校入試問題等の結果を基に、正答率の低い問題については、誤答例等を示し、児童生徒の学力の実態や今後の指導の在り方を考察した。
- ◎ 小中学校の系統性を意識した指導の在り方を模擬授業で提案した。

(例) [社会科]: 「小中学校における、地図学習の指導の在り方」

[英会話科・英語科]: 「自己紹介をテーマにした、英会話科と英語科における指導の実践」

6 考察

3か年計画の調査研究が始まってまもない時期ではあるが、前述の表1と次の表2を比較すると、支援依頼の件数が増え、支援対象や内容も広がっている。

表2 本年度の主な支援の実績（平成22年9月現在）

支援対象 (学校種)	件数	人数	形式	内容
美郷町 (小中)	1	2	情報提供	カリキュラム編成・組織マネジメント
宮崎市 (小)	1	1	情報提供	一貫教育の取組の成果
美郷町 (小中)	1	7	講義・演習	小中一貫教育学力向上研修会
	1	3	情報提供	小中一貫教育の取組に関する評価指標
	1	7	講義	学力向上研修会
えびの市 (中高)	2	3	講義	「PISA型読解力」に関わる研修会
	1	1	講義・演習	一貫教育「英会話科・英語表現科部会」における研修
	1	1	参加	一貫教育講演会
	1	1	参加	一貫教育研究協議会
	1	1	情報収集	一貫教育に関するアンケート
小林市 (小中)	1	2	講義・参加	一貫教育フォーラム
教育事務所	1	1	情報提供	一貫教育先進校の取組

事前に地域や学校のニーズを把握することで、きめ細かな支援ができるようになってきている。情報提供の支援が少ないことから、カリキュラム支援センターからの情報発信が今後の課題の1つであることがわかる。

7 今後の取組

本センター所員が研究協力依頼校の教職員等とともに、県外の一貫教育先進校の視察や一貫教育の研究発表大会への参加を予定している。今後、3か年の研究計画を基に研究を進め、一貫教育に関する情報をWebページに掲載したり、県内の教育事務所ごとに開催される、教職員を対象とした「小中高一貫教育研修会」において、講義を行ったりするなど、積極的に情報を発信する予定である。